

工科のための複素解析正誤表 (令和3年3月17日)

p.	l.	誤	正
82	↑ 7	縦線集合 (3.10) にも横線集合 (3.11)	横線集合 (3.10) にも縦線集合 (3.11)
169	↓ 6	(2) $z^2f(z)$ は $\mathbb{C}$ 上有界である. すなわち, 定数 $M > 0$ があってすべての $z \in \mathbb{C}$ に対して $ z^2f(z)  \leq M$ が成り立つ.	(2) $z^2f(z)$ は遠方で有界, すなわち正定数 $R_0, M$ があってすべての $ z  > R_0$ に対して $ z^2f(z)  \leq M$ が成り立つ.
169	↑ 11	定数 $R > 0$ を	定数 $R > R_0$ を
172	↓ 7	(2) 定数 $M > 0$ があってすべての $z \in \mathbb{C}$ に対して $ zf(z)  \leq M$ が成り立つ.	(2) 正定数 $R_0, M$ があってすべての $ z  > R_0$ に対して $ zf(z)  \leq M$ が成り立つ.
173	↑ 6	… となるように $R > 0$ を取る.	… となるように $R > R_0$ を取る.
178	↑ 9	(2) 正定数 $M$ があってすべての $z \in \mathbb{C}$ に対して $ zf(z)  \leq M$ が成り立つ.	(2) 正定数 $R_0, M$ があってすべての $ z  > R_0$ に対して $ zf(z)  \leq M$ が成り立つ.
179	↓ 4	$R > 0$ を上半平面内の	$R > R_0$ を上半平面内の
181	↓ 3	(2) 正定数 $M$ があって, 任意の $z \in \mathbb{C}$ に対して $ zf(z)  \leq M$ が成り立つ.	(2) 正定数 $R_0, M$ があって任意の $ z  > R_0$ に対して $ zf(z)  \leq M$ が成り立つ.
181	↓ 13	成り立つように $R > 0$ を	成り立つように $R > R_0$ を
183	↑ 9	(2) 正定数 $M$ があって任意の $z \in \mathbb{C}$ に対して $ z^2f(z)  \leq M$ が成り立つ.	(2) 正定数 $R_0, M$ があって任意の $ z  > R_0$ に対して $ z^2f(z)  \leq M$ .
183	↑ 3	… を十分小さく, $R > 0$	… を十分小さく, $R > R_0$
185	↑ 6	(2) 正定数 $M$ があって任意の $z \in \mathbb{C}$ に対して $ z^2f(z)  \leq M$ となる.	(2) 正定数 $R_0, M$ があって任意の $ z  > R_0$ に対して $ z^2f(z)  \leq M$ となる.